

令和元年度 経営改善計画ヒアリング 計画・取組状況とヒアリング時の特記事項 <中途退学者の防止>

今後の計画（3年間）	令和元年度の具体的な取り組み・タイムスケジュール	ヒアリング時の特記
<p><学生専門委員会・学生課></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学生が抱える問題について面談等で早期発見する。 ◆連続3回以上の欠席者についての対応。 ◆学生満足度をいかに上げていくか。 	<p><学生専門委員会・学生課></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆一人暮らしの学生全員への電話による面談、1,2年生全員に対し（支援センターによる）6、7月中実施予定 ◆1年生、2年生全員への面談（学生課、支援センター共同で実施予定）10月～12月実施予定 ◆連続欠席者については、教務課と連携する。その後関係部署へ連絡等を行う。（随時） ◆不登校学生のアパートへの訪問（学生課、支援センター共同で実施） ◆学生生活実態調査の結果で学生自治会との話し合いを設ける。（12月中） 	<p><学生専門委員会・学生課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一昨年28、昨年44名。一時的に休学したが結局辞めた ・学生の満足度をあげる ・授業料未納は5～6名（平均的） ・サイボウズを活用し、早めに察知する ・退学するパターンとして、学内で孤立 学内アルバイトなど参加させる仕込みが必要
<p>コース等の取組</p>		
<p><機械></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆入学時のフォーラム旅行前に学生の状況を把握し、フォーラム旅行において対策を実施する。 ◆2年以上においては、講義の出席や理解度を各教員が把握し、前期・後期のオリエンテーション時に面談を行い、退学防止に努める。また、父母懇親会において出席状況や理解度を報告し、学生の状態に応じた進捗を理解してもらうよう努める。 <p>【4年間で卒業できない学生の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆保護者懇談会で事前に4年間で卒業できそうにない学生の状況を把握し、呼び出しをかけている。また機械コースで卒業できそうにない学生には他コースへの移籍の声かけも実施している。 定員未定でほぼ全入の状況で、近年特に数学・物理の基礎もない学生の入学が多く、留年は致し方ないと考える。 	<p><機械></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆退学者は6名。うち1年生は1名（韓国留学生）、2年生3名は進路変更、4年生2名のうち1名は一度授業料払えず退学し、再入学した（H30年度）。 ◆1年生においては、不登校ぎみの問題ある学生への学年担当を中心としたインタビューの実施や電話による状況把握に努める。 ◆現在、前期卒業予定の4年以上の学生（附属校、ベトナム留学生、南）が3名在籍しているが、卒論への取り組み状況は芳しくなく、必修科目（材料力学Ⅰ・機械力学Ⅰ）の講義での中間試験（毎年おおむね同じ問題）においても卒業が保障できる点数が獲得できていない。休学中の補講（材料力学Ⅰ）、自主的に勉強できる機会、取得できていない必修科目の教員との会話ができる環境は設けているが、補講にも参加せず、本人に勉学の努力、卒業の意思がないと卒業は困難な状況である。 	<p><機械></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中途退学→担任制によるフォロー。他コースへ転入（機械→生命、機械→マネジ）。 機械へのアピールは？→他コースからの機械、電気への転入は、難しい。
<p><建築></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学生の欠席が3回以上続いた場合、教員同士で学生の状況を把握し、本人に連絡を取る。難しいときは、家庭の協力も得る。 ◆春と秋のガイダンス時に、単位取得一覧表を作成し（建築独自）、学生の単位取得状況を確認する。状況のよくない学生は、呼び出してヒアリングを行う。この過程によって、一級建築士試験受験資格に必要な単位の取得につながる。 ◆本学は面倒見のよいところが売りだが、近年は力を尽くしても学力や経済面が厳しい学生がいる。それでも、進路変更も含め、親身に相談に乗る。 	<p><建築></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆左のいずれも、4月からすでに取り組んでいる。 ◆教員は十分に力を尽くしているが、大学に来られない学生、経済的に厳しい学生、学力が厳しい学生がいることを知ってほしい。 	<p><建築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・附高だから退学が多いわけではない ・夜の仕事をやる子が多い ・経済的な問題。サッカー部とアルバイトで疲れ果てている ・海星、南山などグループでかたまり、その他（五島など）孤独感
<p><電気></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆昨年度の退学者は、4名（在学5年目1名、在学6年目1名、在学7年目1名、他大学で留年後、本学に3年次編入して在学3年目1名）であった。 ◆退学防止に向けた取り組みは下記の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> 1 保護者を交えた面談を実施する 1 欠席が多い学生に対する素早い対応を行う 	<p><電気></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆これまで同様、講義の欠席が続いた学生に対しては、学生自身に対する素早い個別の呼び出しに加え、保護者を交えた面談を実施する。 不登校状態に近い学生には、学生・保護者との面談の後、生活支援センター、学習支援センターおよび保健センターに案内して連携したサポートを実施する。心身の問題が見られるケースが多いため、病院の紹介まで含めた協力を実施していく。 	<p><電気></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門高校からの入学者のほうが、普通科高校からの入学者より、学力、意識など資質がある。

<p>◆上記に加え、生活支援センター・学習支援センター・保健センターの協力を頂き多面的なサポートを行う。</p> <p>【4年間で卒業できない学生の対応】</p> <p>◆過年度生(休学中を除く)は、令和元年度3名が在籍している。3名は9月および3月卒業を目指して不足単位取得に取り組んでおり、学年担当教員による面談と支援を実施する。</p> <p>◆また、1年次の教育が重要であると考えており、1年生対象の専門科目(電気工学基礎1・2)では、講義ノートの個別チェック、電気電子工学演習では出席状況と取り組みの姿勢から心身の様子を含めて確認を行う。</p>	<p>◆学生の状況は、講義への出席状況および講義ノートの状態からチェックして教員間で情報を共有する。欠席が2~3回に達した学生に対しては、保護者を交えた面談を実施する。保護者を交えた面談は、令和元年度も既に3,2年生に加え1年生に対して実施した。</p> <p>この面談では、保護者から高校までの状況や心身に関する相談をされるケースが多く、関係者で情報を共有して支援を行う。</p>	
<p><医療></p>	<p><医療></p>	<p><医療></p> <ul style="list-style-type: none"> 退学者は0ではない。理由→思っていたものと違う。特待生で入学し、成績不良で取り消し、学費が払えないケース。本人の希望ではなく、親の勧めで入学した学生。
<p><知能></p> <p>◆昨年度の中途退学者は3名： 2年 健康上の理由 留年 未納退学 留年 未納退学</p> <p>一昨年度に11名が退学したこともあり、昨年度は中途退学者の数を比較的少なく抑えることができた。2年生の学生は、もともと通信制の高校から来た学生で、入学後からほとんど大学に来ることができなかった。体調不調ということであったが、1年次の修得単位は2単位のみ。2年次に体調を整えようと前期休学して様子をみだが、そのまま復学することなく前期末で退学した。</p> <p>ほかの2名はともに留年生で、何とか卒業を目指してがんばってきたが卒業の目処が立たない中、経済的に続けていくのが限界で退学した。</p> <p>【4年間で卒業できない学生の対応】</p> <p>◆今年度在籍している学生は、1年生32名、2年生29名、3年生29名、4年生29名、“5”年生2名、“6”年生3名、“7”年生1名の計125名。そのうち単位修得が大幅に遅れていて4年で卒業が難しそうな学生は2年生に2名(0単位、26単位)、3年生に2名(35単位、42単位)、4年生に2名(6単位、46単位)、5年生以上に2名(56単位、67単位)在籍している。4年次で卒業研究に着手できないと留年が決まってしまう。知能情報コースでは、着手条件を若干緩め、いったん仮着手という形で(就職活動はさせずに)卒業研究に取り組ませ、前期終了時に再度着手判定をしている。修得単位を110単位にするのが条件で、その厳しい条件をクリアして卒業のみならずちゃんと就職していった学生も過去には何人かいる。</p> <p>以前は着手条件をわずかに満たせない学生が多かったが、最近は単位を取れない学生はまったく届かず(Aタイプ)、着手判定に悩むこともなくなった。代わりに増えてきたのが、</p>	<p><知能></p> <p>◆大学に出てこられない学生に対する指導は限定的で、そうなる前に、学生生活支援センターや保健センターとも連携し、気になる学生の保護者には随時電話や面談で連絡を取り合い、退学者の防止に取り組んでいく。</p> <p>奨学金が停止され、授業料や生活費が払えずに退学していった学生もいる。学費を稼ぐためにアルバイトに専念しようと休学している“退学予備軍”も何人かいる。</p> <p>今年度から実施されることになった留年生に対する学費の減免措置は非常にありがたい。実際にこの措置のおかげで諦めずに今年度の卒業を目指している学生が何人かいる。入学してくる学生の学力低下が問題となる一方で単位認定や卒業要件の厳格化が求められ、なかなか4年間でちゃんと卒業させることが難しい学生が増えてきている。そのような学生たちに対しても、経済的負担をあまりかけずに4年を越える学修計画を提案できるような仕組みがあると更に良いように思う。</p> <p>◆Bタイプの学生たちは文章を書いたりまとめて発表したりするのが非常に苦手で、そういったコミュニケーション力の低さから就職活動がうまくいかずにその結果卒業研究にも身が入らなくなることも多々ある。知能情報コースでは以前より、キックオフ発表会や中間発表会を通して、(あるいはその前の段階から実験レポートなどを通して)まとめたり発表したりする機会を何回も設けてきているが、なかなかそれだけでは克服できず毎年学生の指導に苦労している。大抵の学生たちは卒業研究に集中させ指導を徹底することで何とか4年間で卒業していくが、5年目にかかってしまう学生たちもでてくる。そういった学生たちは、まず継続して大学に来させることが重要で、学内に居場所を作ってあげることが効果的である。他の学生たちとは別に活動できるように留年生用の部屋を設けることで他の学生たちの目を気にせずに大学に来て卒業研究に取り組むことができていた。また、卒業研究の指導に2人以上の教員でかわ</p>	<p><知能></p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいプログラム→コースの壁を破って、募集上も看板を打ち出し、社会に送り出していく。問題は、単位取得が難しい学生などを誰がどうみるのか、責任の所在を明確化しておく必要。共有・分担の仕組み。 昨年までは、留年生専用の部屋を用意。現在、学生用のスペース、非常勤講師室、11月新任の先生の研究室などが無い。→管財課と協議し計画を作り、示す。 学生生活支援センターの相談も知能の留年生が多い→障害学生もおり、対応が難しい学生もいる。

3年次までは比較的順調に進んできて、いざ卒業研究に取り組み、論文にまとめる時点で躓いて卒業できなくなる学生たち（Bタイプ）で、5年生以上の6名のうち修得単位状況が悪くない4名の学生たちはこのタイプである。

ることも効果をあげている。
5号館A棟から退去を求められて以来、知能情報コースの教員や学生のための部屋が足りていないのは非常に問題で、これは何とかしてほしい。このままでは、現在進めている公募の先生の入る居室もゼミ室も17号館にはない。

<マネジメント>

◆右表は、直近7年の本コースと旧経営情報学科の合計の退学者数である(H26年度より現行コース生入学、H29年度末に旧学科の学生が退学。)
H26,27には少なくなった退学者が再び増えだす傾向にある。
本コースでの学生指導は、基本的にゼミ担当が担っている(1年生については分担)。本コースでは学生面談を2回/学期(H25年度以前は1回/学期)実施しているが、退学者の多くが大学にあまり来ておらず、この学生面談を指定期日に受けていない。そこで、特別に呼び出したり、必要に応じて保護者に連絡を取ったりしていた。また、保護者懇談会にも参加を促す手紙を保護者宛に出して、保護者との相談行ってきた。
退学の理由として、勉学意欲の喪失と経済的理由が最も多い。入学当初から勉学意欲の低い学生もいるが、経済的な理由からバイトが多くなり、授業の出席率が下がり、理解度も低くなり、勉学意欲の喪失につながっていると思われる者もいる。また、近年では退学予備軍の中に、発達障害を含め、多くの悩みを抱えている学生も多い。

◆今後3年以内に以下の対策を実施する。

- ①学生との面談の徹底(学生の頻繁な状況把握)
- ②勉学意欲向上に向けた取組(課外活動等への参加)
- ③経済的支援(本コースだけでは無理)への制度検討
- ④発達障害などの学生のケアと教員の対応研修

年度	退学者数/在籍者数
H24	6/(13+27+22+34=96)[6.25%]
H25	4/(21+12+23+24=80)[5.00%]
H26	3/(16+23+12+23=74)[4.05%]
H27	3/(12+16+21+17=66)[4.55%]
H28	5/(26+11+15+21=73)[6.85%]
H29	6/(12+24+11+14=61)[9.84%]
H30	4/(20+14+22+15=71)[5.63%]

<マネジメント>

- ◆今後3年以内に実施する以下の項目はすべて、今年度中に手を付け先に進める。
- ①学生との面談の徹底(学生の頻繁な状況把握)
 - ②勉学意欲向上に向けた取組(課外活動等への参加)
 - ③経済的支援(本コースだけでは無理)への制度検討
 - ④発達障害などの学生のケアと教員の対応研修
- ①はすでに実施している学期内での2回の面談をさらに充実させる。各教員間での情報共有を促進する。
②については、マネジメント工学コースが手掛ける地域と連携した教育研究活動に駆り出すなどして、学ぶ事の目的を見つけさせ、楽しみを感じる機会を与える。
③についての原案はあるので、その実現に向けていくつかの障害をクリアし、法人との協力の下で実現させたい。
④については、他大学や専門機関の協力を得ながら、少しずつでも前進させる。

<マネジメント>

- 中途退学防止→勉学意欲の低い学生が入学→デスクワークだけでなく、フィールドワークで、外部と接する機会を増やす(ビジネスプランコンテストが顕著な例)。全学的な経済面の支援。障害学生のケア・支援と対応研修、専門機関との連携。ケア重要だが、分母を増やしていけば、退学率は減。
- 他大学で退学者がネットで悪評→本学でも特定の学生が多面でクレーム。攻撃性の強い学生。難しい問題。事務の対応トラブル→職員も疲弊。

<生命>

◆入学者数と退学者数の現状

		退学者数					計
		2014	2015	2016	2017	2018	
入 学 者 数	2014(12)	1			3	1	5
	2015(22)		1	1	1		3
	2016(23)				1		1
	2017(18)						0
	2018(16)					2	2
	2019(20)						
計		1	1	1	5	3	11

退学者の内、半数は一般入試を受けての入学であり、受験時に面接等の接触をすることがない。入学後の早期の面談により学生の資質の把握を努めている。保健センターの新入生に対するテストにおいて配慮対象となる学生以外にも、コース内の指導等において気になる学生が毎年1, 2名見つかっている。退学へつながることが懸念される学生は入学後の面談等で気づくため、関係部署と情報交換を行っている。状況が悪化する場合（メンタル的な場合）は早めの休学を勧めている。
入学制度や入学者の多様性から中途退学者をゼロとすることは難しいと考えるが、各年度の入学者の内2名程度に抑えたい。

<生命>

◆1年生に対する面談による資質の把握

4月と7月に面談を総合情報学フォーラムにおいて実施
フィールド活動を実施することで学生の行動を把握

◆学年担当の配置

各学年に卒業時までの担当（担任）を置き、コース会議において常時情報共有

<生命>

•担任制→面談を1年生4回、2年生は2回実施、3年生ではゼミに配属になり接触回数増。4年生では就職委員としても関わる。